

ん達や馬なども生き返り宮殿の中には大勢の人が入れる様になり  
 ましたので此國の王様は大層悦んで恭仁王を貰って此國の王様に  
 して御自分は田舎へ御隠居なさいました。めでたし／＼

## 私はもみぢ

ゆ き 子

私は御庭のもみぢです。私の生れました時は恰も櫻の花のさかりでぽか／＼とあた  
 かなよい御天氣の日でしたから皆さんはわざ／＼向島や小金井へ御花見に御出か  
 けになりました御留守の時でした。それですから私が生れた斗りで眞赤な顔を天鷲  
 絨の蒲團の中から出して躰はまだ扇の摺のやうになつてのびずに居りました頃の事  
 は皆さんは御存じなかったでしやう。私は皆さんの聲をきゝましてはやくお友達に  
 なりたいあのさくらの花のやうになつて皆さんと御話が出来るやうになりたいもの  
 だと思つて居りましたの。  
 私の躰は奇態な躰、私ばかりでありませんあの枝に居る澤山の兄弟も、この枝に遊  
 んで居ますあの姉妹も皆同じ事ですすが皆澤山の囊がいくつも／＼ならんで重さな

てこのやうに皆さんの掌をひろげたやうな形をして居るのです。そしてこのやうに紅い丈夫そうな愉快な色をして居りますのは囊の中へ紅の液が澤山はいつて居ますからなのです。それで御日様ことに朝日や夕日にてられますとますく紅く見えるのです。

けれども、つひ此間まではみどり色をして居ました。それは躰の囊の中に緑の粒々が澤山はいつて居りましたので。まだその前には眞赤でしたが今の紅いのはちがひましてその時は恰も生れました斗りて私の躰がまだ大きく丈夫になつて居りませんから緑の粒があまり御日様にあたりましてはよくありませんので父様や母様が大事にして赤い液の着物を着せて下さいましたからでした。

だんく大きくなりました時に赤い着物をぬがせて下さいましたがその時にはもう私の躰の囊の中には緑の粒が丈夫になつて一杯ありまして萌え立つやうに緑色になります。そして私は一つの先生に御習ひするやうになりましたその先生はあの御日様でした。御日様が御出になりますともう躰の中の緑の粒が皆々空氣の中にある炭酸瓦斯といふ皆さんには害になりますものを吸ひましてそれをわけて皆さんに大事な酸素を出します。そしてその度毎に私の囊の中には澱粉といふ皆さんが召し上る

御飯と同じやうな性質のものをこしらへます事を教へて下さるのです。そして毎夜の宿題に澱粉を砂糖にかへまして翌の朝まで皆様に送っておかねばならぬ事があります。もうそれですから私共兄弟姉妹はなかよく一生懸命ではたらしまして朝日がいさ／＼昇ります頃にはもう何も出来上りましていさ／＼と元氣よく皆さんが暑さにもまけずに機嫌よく歸つて入らしやいましてあゝ此の下はすいすいナ―葉がよい色がすいすいなど褒めて下さいます聲をきゝまして嬉しくつてます／＼はげみました。

夏休みで皆さんが鎌倉や大磯へ御出になりましたしばらくの間私は相變らず御日様の教を守りまして近ごろは澤山根の方へ貯へが出来ました。それで御日様がもうよく勉強していふ事をよくきゝましたから御褒美に今までの緑の粒のかはりに紅い美しい露を一杯入れまして錦の着物を着たやうになつてよろしいと申されましたからそれでこんなに紅くなりました。

處が奇妙ですまあ近頃は私を大そう遠方からの方や方々のかたが御らひなすつてあの私が生れました時の櫻の花と同じ事だいやそれよりも美しいと云ふて褒めて下さいますかそんなでしやうかしら。今までのわたしの生涯はこんなものです。